

**各区障がい者相談支援センター
平成28年度 地域課題に対する取組一覧**

区名	テーマ	地域課題	取組内容
北	就労系福祉サービス事業の体験説明会	成人後に精神障がい、発達障がい、高次脳機能障がいなどで離職し困窮している人が、就労系福祉サービスの存在を知らない	ハローワーク、就労系事業所とともに、毎月1回、求職障がい者向け体験・説明会を開催
都島	①無人駅の問題について実地調査とアンケート集約の実施	終日無人や時間帯無人の駅が多くあり、バリアフリー化が進んでいない箇所もあり、障がい当事者が利用しにくい	京阪電鉄の駅の実地調査、障がい当事者へのアンケート調査の実施
	②熊本地震から学ぶ被災地での障がい者支援について学ぶ	大地震が起こった時に地域の障がい者の置かれる状況について考える場が少ない	熊本地震において障がい者支援を行った方による講演会を、地域住民向けに開催(1回)
	③都島区民祭り&福祉ふれあいフェスタへの参加	障がい当事者が地域の方たちと交流する場が少ない	地域のお祭りに、障がい当事者がスタッフとして輪投げのコーナーを出店(1回)
	④地域の学校における福祉教育の実施	地域の学校と障がい者支援機関とのかかわりが少なく、学校の生徒たちと障がい者の交流の機会を増やしていかなければならない	区内の小・中学校で、当事者の講話、車いす体験、手話体験などの福祉教育を実施(5回)
	⑤障がい当事者のエンパワメントに向けた「ピア・カウンセリング」の開催	障がい当事者同士がお互いの思いを聞き合う場が地域の中に少ない	「みやこじまピアカン」を区社協との協働で開催(4回)、「ピア・カウンセリング集中講座」開催(6回)
	⑥外出の経験が少ない障がい者に向けた、外出のきっかけとなるような企画	地域には障がい者の参加しやすい企画が少なく、外出が困難な障がい者には、制度の不足、本人の心理的な不安、出かけるきっかけがないことなどから、機会づくりが必要	プラネタリウム見学、ボール大会を大阪工業大学ボランティア教育研究会と協働実施(2回)
	⑦地域の障がい者や家族、関係機関に向けた情報提供のための機関紙の発行	地域の障がい者や家族が情報を得られる場が少なく、わかりやすく制度解説したり、情報発信をしていかなければならない	機関紙の発行(3回)
	⑧地域福祉コーディネーターや地域住民に向けた障がい者理解の促進プログラム研修会の実施	地域の方たちにとって、精神障がい者の実際の地域生活や、相談窓口に関する情報提供の場が少ない	地域住民向け障がい者理解の推進プログラム「広げよう地域の輪」を、精神障がい者への理解促進の内容で巡回開催(3回)
福島	①学齢期の保護者や教育機関へ向けて情報提供をする	教育機関と福祉との連携が不十分であり、保護者にとって身近に相談ができるのは教員だが、教員は必ずしも福祉の制度について詳しくない場合がある	小学校校長会にて趣旨説明・依頼し、各小学校に相談窓口のポスターを掲示
	②選定会議の開催	委託相談と計画相談の連携が取れていなかった	計画相談事業者選定会議開催要綱を作成、計画相談事業者選定会議を開催。併せて、相談支援事業所連絡会を開催

**各区障がい者相談支援センター
平成28年度 地域課題に対する取組一覧**

区名	テーマ	地域課題	取組内容
此花	「障がいがあっても、なくても ～暮らしやすい地域のために～」	広報啓発の不足のため、障がい児・者やその家族等への相談窓口の周知が十分ではない	区内9地域の研修会に出席し、見守りボランティア(計196人)に対して区センター業務などを説明
中央	災害時の障がい者への配慮等について考える防災研修の実施	障がい者と健常者の接点が少なく、障がい者理解が進んでいない。また、住民同士の関係性が希薄で、特に障がい者の生活実態が見えにくい	地域住民と協働して災害時避難所実習を行い、避難所運営シミュレーションや障がい当事者の視点からの提言(2回)
西	講演会「お子さんの気になる行動はありませんか?～『発達障がい』って、なんだろう?～」	人口増加に伴い、保育所等を利用できていない方々の増加が予想され、集団生活を送る中での気づきなどの機会が少なくなっているのではないか	家族・支援者向け講演会開催(1回)
港	①港区障がい者地域自立支援協議会研修「精神保健福祉相談員の役割」「連携の概念と関係性についての共有」	区内における障がい福祉サービス事業所等の存在は知っていても、どのような事業展開をしているのか、どのような相談に応じてもらえるのか、実際の連携に至っていない	区内事業所、関係機関向け研修会・交流会の開催(1回)
	②自立支援協議会の活性化	区内には様々な課題があるが、自立支援協議会内で実際に地域の課題を吸い上げて整理し、検討する仕組みがない	港区障がい者地域自立支援協議会あり方検討委員会の実施(4回)
	③相談支援の円滑な利用、相談支援専門員のスキルアップを含め、相談支援全般の質の向上に向けた取り組み	新規の計画相談支援事業所が立ち上がって間もない中、相談支援専門員が不慣れなこともあり、障がい特性の理解が乏しく、何をどう進めていけば良いのかが分からないといったケースや、ニーズ整理がうまく進まないなど、個々の相談員が抱える疑問や問題に対して、検討できる場がない	区担当者、地域活動支援センターも参加しての相談支援連絡会の開催(12回)
	④社会資源が少ない地域に居住している利用者に対する円滑なサービス利用に向けた取り組み	築港地区には障がい福祉サービスを提供する事業所が少ないため、障がい福祉サービス事業所の調整ができず、本人が利用したい居宅介護サービスが長期にわたり利用できないといったケースがある	区内のケアマネジャーの集まりに出向き、区センター業務や障がい福祉の状況を説明、介護サービス分野にかかる情報を収集(1回)
大正	①就労系、放課後デイ、相談支援事業者の支援の資質向上を目的とした研修会	事業所による虐待事例や個別の支援に対する力量不足の事例が発生しており、事業所に対してより良い支援について考えてもらう必要がある	近隣7区協議会共催で、事業所管理者向け研修会を開催(2回)
	②障がい者の労働に関する学習会の開催	障がい者本人や家族の就労に対する意識のあり方、雇用主側の意識のあり方、支援の共有、雇用における合理的配慮の合意獲得等の課題がある	障がい当事者も参加した学習会の開催(1回)
天王寺	障がいの有無を問わず参加できるピア・カウンセリング体験講座	障がい者と健常者の接点が少なく、障がい者理解が進んでいない。また、地域における障がい者リーダーの養成ができていない	地域住民も参加できるピア・カウンセリング講座を、中央区センターと共催で開催(1回)
浪速	地域の事業所・団体との連携の強化	日中活動の場が少ない、ヘルパー事業所の障がいに対する理解が浸透していないなど、社会資源および事業所間のネットワーク、人材の不足	地域自立支援協議会における見学会開催(4回)、相談支援事業所部会の立ち上げ、放課後等デイサービス連絡会の部会化に向けた準備

**各区障がい者相談支援センター
平成28年度 地域課題に対する取組一覧**

区名	テーマ	地域課題	取組内容
西淀川	①友達づくり、余暇の充実を希望する地域の障がい当事者の集う場	障がいがあっても生涯学習に参加したいという相談を受けるが、地域の生涯学習では断られる事例が多い	地域の老人会とも連携して生涯学習の取組を実施(毎月)
	②子供・高齢・障がい・社協の代表者による意見交換の場の運営	障がい関係のみならず、子供や高齢と関係した課題があるが、各部門の関係機関の連携が不十分	区アクションプランの元メンバーを中心に「カフェふくふく」を運営(隔月)
淀川	社会資源の改善に向けた取組を行い、障がい者が地域で自分らしく生活できる社会の実現を目指す	区民の約5%が何らかの障がい者手帳を所持しているが、障がい特性に対応できる社会資源が不足している。	協議会の全部会に参画して問題提起するとともに、仕事や生活についての相談会「第2回はたらく・くらしフェスタ」を実施(1回)
東淀川	あんしんサポートと成年後見制度について学ぶ	金銭管理や生活上の意思決定が困難な方が多くいるが、資源が乏しく、ケースに対応できるまでに時間がかかっている	区民対象の講演会開催(1回)
東成	①地域包括支援センターと協働の相談会の開催	高齢・障がいそれぞれの問題にとどまらず、多くの問題を抱えている世帯が増えてきているため、総合的な支援ができる体制が必要	区役所にて「障がいのいろいろ相談会」開催(隔月)
	②地域生活支援システム会議(障がい者専門分野)への参画	障がいのある方の地域での暮らしについて、どのような仕組みがあれば、より暮らしやすくなるのか、専門家だけでなく、地域の方々にも取り組める方法を考えることが求められている	区、区社協、見守り相談室、歯科医師会、民生委員、地域福祉活動サポーター、障がい者相談員などが集まり、障がいのある区民への支援課題を協議し、自立支援協議会や区政へ提言
	③中本いろいろ相談会	地域のつながりから福祉問題について芽の小さいうちに解決できるよう、顔の見える範囲での支援体制を築けるようにする	地元の老人いこいの家にて、地域福祉活動サポーター、民生委員、地域団体、包括などととも相談会を開催(毎月)
	④障がい者等を対象とした見守り活動の充実に向けたワークショップ	社会的弱者に対して地域でサポートしたいという強い思いはあるものの、特に障がい者については対応が千差万別な為、どのように関わりを持てばよいか教えてほしいという声がある	地域の方に対し、障がいのある人たちの見守り活動を促す啓発活動として、事業所見学会を企画し、全体報告会を実施
生野	地域住民や関係事業者への障がい理解	高齢者が多い地域であり、高齢者と同居の障がい者の高齢化が進んでいる。高齢者向けの訪問介護事業所も多く、その半数は障がいのサービスも行っているが、障がいへの理解を深める必要がある	事業所、地域住民対象の講演会を、合理的配慮、意思決定をテーマに開催(1回)
旭	①精神障がい者権利擁護について考える	昨今、精神障がいを背景とした事件も多く、今一度精神障がいへの理解を訴える必要がある	ステージ発表、自主製品販売、弁護士による講演などを内容とする啓発イベントを実施(1回)
	②支援が必要な子を持つ家族を対象とした子育て応援セミナー	学校選択制、支援学校か地域の学校かなど、支援が必要な子を持つ親の悩みは尽きず、児童に関わる相談機関も区内は少ない	支援学校、地域の学校に通った先輩保護者・当事者による講話と交流会を実施(1回)

**各区障がい者相談支援センター
平成28年度 地域課題に対する取組一覧**

区名	テーマ	地域課題	取組内容
城東	障がい児・障がい者及びその家族、また誰でも気軽に立ち寄れる「居場所」づくり	障がい福祉サービスの事業所は年々増加しているが、ひきこもりや支援につながない方の初めの一歩となる場所がなかなかない	区センターにて「WAKUWAKUカフェ」を開催、時折、イベント企画も実施(23回)
鶴見	①地域とのネットワークによる福祉教育プログラムの開発と実践	15歳未満の人口比率が高く、若い世代の家族が多く、様々な世代、属性をもつ住民の相互理解、つながりの強化が地域づくりにおいて重要な課題となっている。そのため、次世代を担う子どもたちの人権意識の醸成を教育現場、地域福祉関係機関と共に働きかけ、将来にわたる地域の福祉力強化に結びつけていくことが必要	教職員を対象に「先生のための福祉教育講座」開催(1回)。各教育現場で実践できるよう、教職員や地域社協と協働して福祉教育プログラムを企画・実施
	②対人援助専門職の相談援助技能の向上	精神障がいや発達障がいなどによって、日常生活の様々な場面で「いきにくさ」を抱えている人たちが、誰一人として阻害されないような包摂型社会の構築のために、支援の根幹をなす個々の意思決定を支える体制を整備する必要がある	意思決定支援をテーマに、福祉分野の専門職を対象とした研修会を開催(1回)
阿倍野	①親亡き後の障がい者の自立支援を考える	今までは、地域でも見守りということができていたが、新興住宅がたくさん建ち、昔ながらの関係性というものは薄くなっている	主に知的障がい者と暮らす高齢の親にグループホームのイメージを持ってもらうために、法人の家族会にてグループホーム担当者から説明(1回)
	②地域福祉力の向上	地域で支え合う土台の整備やシステムの構築が進んでいない	地域住民などを対象に、二日間にわたってボランティア講座を開催(1回)
住之江	区内の福祉的防災意識向上と福祉避難所の在り方検討	高齢者・障がい者・子ども・女性など、被災弱者と言われる人たちの避難所が、現状で機能するのかの検証が不十分	協議会当事者部会にて防災セミナーの開催に向けての準備活動を通年実施
住吉	必要な社会資源(居住の場)の把握	支援の受け入れの場が十分ではなく、施設入所者、虐待等の緊急ケースの行き場がない	区内からの施設入所者を訪問して面談を行い、必要な受け皿を把握(9回)
東住吉	東住吉区障がい児・者自立支援フェスティバルの開催	障がい者の生活がまだまだ知られていない、障がい者と防災に関しての取り組みが進んでいない	区民向け啓発イベントの開催(1回)
平野	地域の実情を踏まえた相談支援に係るネットワークの構築	障がい福祉サービス受給者の多さに対して、指定相談支援事業者数は少なく、計画相談支援の利用率も4割。精神障がい者や高齢障がい者の増加に伴い、社会資源の不足や相談支援のあり方が課題となっている	地域自立支援協議会相談事業部会の毎月定例開催と、各種研修への積極参加
西成	コミュニティソーシャルワークの実践	潜在的ニーズの発掘	出前相談会、映画上映会、誰でも参加できるコミュニティ食堂の運営、手話カフェの開催など、多彩な活動を展開